

## 生体抽出法による野菜・花きの栄養診断

### [研究のねらい]

作物の体内成分分析は、一般的に全分解による分析法が用いられるが、生産現場における栄養診断では、迅速性と簡便性が求められます。そこで、1N塩酸を抽出液とした作物生体からの直接抽出法による野菜・花きの栄養診断技術を確立します。

### [研究の成果]

- ①多くの元素を同時に抽出、比較できるうえ、試料の調整が簡便です（図1）。
- ②リンと鉄の抽出率は低いですが、鉄を除いて各元素とも全分解による分析法と高い相関関係があります（図2）。

### [成果の活用面・留意点]

- ①要素欠乏を診断する場合は、正常株の同一部位を同じように処理し、障害発生株と比較します（同じ作付けで、同じ品種が望ましいです）。
- ②試料作物の水分含有率は、必ず求めておきます（水分含有率が90%と95%では分析結果が2倍異なります）。

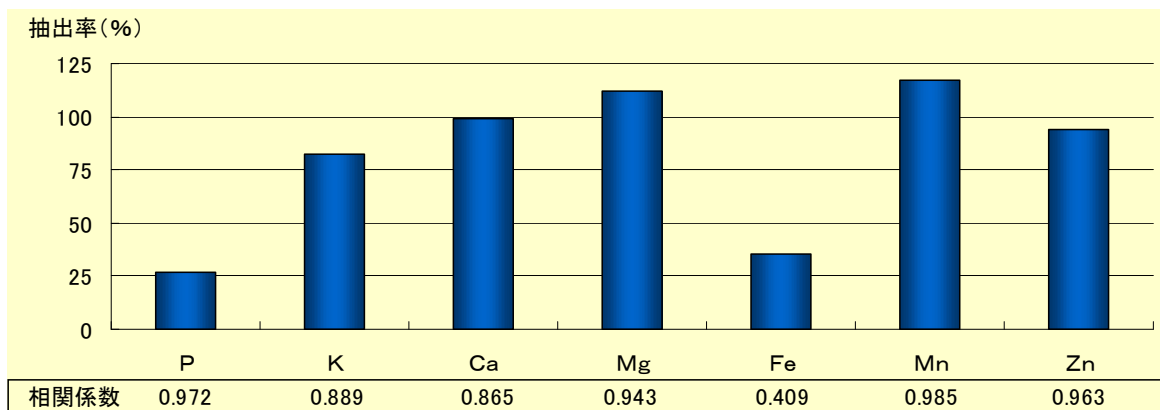
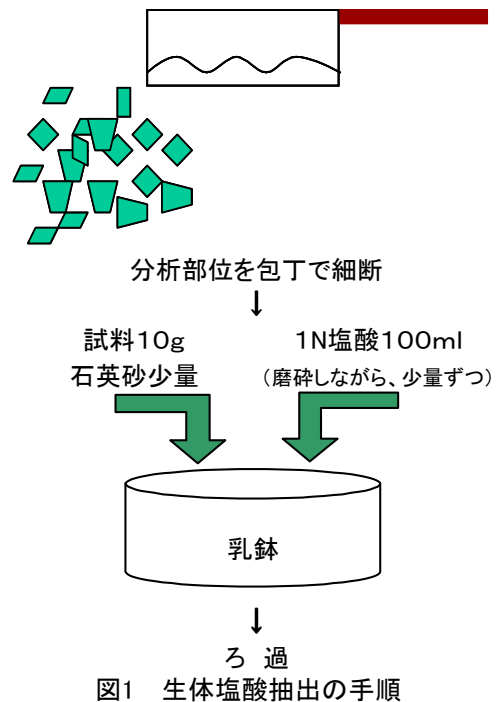


図2 全分解分析法に対する生体塩酸抽出法の抽出率と相関係数

注) 試料:ハクサイ、抽出率 = 生体塩酸抽出法 / 全分解分析法 × 100

実施年度：平成元年

担当者：平田滋、川口博史